

第 100 回日本細菌学会関東支部総会報告

帝京大学医学部 微生物学講座 斧 康雄

第 100 回日本細菌学会関東支部総会は、平成 29 年 9 月 28 日(木)、29 日(金)の 2 日間にわたり、帝京大学板橋キャンパス大学棟内教室にて開催され、161 名の参加をいただき無事終了いたしました。今回は第 100 回の記念支部総会となるため、「細菌学の進歩と今後の課題」をメインテーマに特別講演、教育講演の他に多数の若手研究者によるシンポジウムを中心に企画しましたが、一般演題として多数の学生会員や留学生、会員発表合わせて 22 題の演題をいただきました。特別講演は、神谷茂先生(杏林大医)に「ヘリコバクター・ピロリ感染症～病原性と伝播様式」をテーマに、研究が進む本菌の病原因子や疫学情報など、教室データを含めてわかりやすく講演いただきました。教育講演 1 は、八木澤守正先生(慶應大薬)に、抗菌薬開発の歴史や現状、今後の展望をテーマにお話いただき、抗菌薬開発における本学会会員の貢献が大きいことが改めて認識できました。教育講演 2 は、本学の女性医師・研究者支援センターとの共催企画で金子希代子先生(帝京大薬)に帝京大学における女性支援の取組について、村山琮明先生(日大薬)に女性研究者としての微生物学研究について講演いただきましたが、多くの女性研究者に感銘を与えました。

シンポジウム 1 は、現在世界的に問題となっている「薬剤耐性グラム陰性桿菌」をテーマに、石井良知先生(東邦大)、鈴木里和先生(感染研)、多田達哉先生(順天堂大)、西田智先生(帝京大)の講演が行なわれました。シンポジウム 2 は、帝京大学関連の演者による講演で「多剤耐性アシネトバクターの病原性と感染対策」をテーマに、川上小夜子先生には薬剤耐性機構と疫学情報を、鴨志田剛先生には新規病原因子、松永直久先生には感染対策の実際についてわかりやすく講演いただき、本菌のしたたかさや感染対策の重要性がよく理解できました。若手研究者により企画されたシンポジウム 3 は、三室仁美先生(東大医科研)からヘリコバクター・ピロリ、祝弘樹先生(国際医療 C)から結核菌、羽田健先生(北里大)からサルモネラ、新崎恒平先生(東京薬科大)からレジオネラについて、それぞれの細菌の病原因子などについて最新研究成果を講演いただきました。シンポジウム 4 は、「重症感染症と宿主応答」をテーマに、室井正志先生(武蔵野大)には AKT1 による TLR シグナル調整、鈴木香先生(順天堂大)には抗菌ペプチド LL-37、祖母井庸之先生(帝京大)には TREM-1、松村隆之先生(感染研)には劇症型溶連菌感染症と未熟骨髄系細胞に関する講演をいただきました。一般演題は、学生会員や留学生の発表が 17 題あり、細菌や真菌に関わる多彩な研究領域から興味ある研究発表があり、正会員による一般演題 5 題においても活発な討論を通してそれぞれの研究内容について理解を深めることができました。懇親会も大変盛況で夜遅くまで熱い議論や活発な会員交流が行なわれました。本年度の大学院生発表者を対象とした若手奨励賞には、岡野徳壽さん(医科歯科大)、安田まり奈さん(筑波大)、橋本祐輔さん(群馬大)が選ばれました。本大会の開催にあたっては、関東支部奥野ルミ支部長をはじめ、座長を務めていただいた先生にも改めて御礼申し上げます。最後に、協賛企業様、演題発表いただいた先生や学生諸君、参加者の皆様には、活発な討論で大会を盛り上げていただき、深くお礼申し上げます。



左から神谷茂先生，八木澤守正先生，大会長 斧